

公園気づきプロジェクト ニュース 4号

小さな公園について

市内には、すべり台が一つだけあるような公園や、同じような公園がたくさんあります。また、それらの中には利用者がほとんど見られない公園が多数存在しています。これらの小さな公園をどのようにすればよいか、周辺の小学校や公民館といった公共施設等の状況も考慮しながら考えました。

■ 各公園の特徴を活かした公園づくりを!

- 小さい公園は、それぞれ違う特色のある公園にし、それらの公園をグループ化してはどうか。(特色アイデア: 小さい子どもが遊べる遊具の公園、思いっきり掘れる砂場だけの公園、全部人工芝の広場、小山だけの公園、ドッグラン、など)
- 特色がある小さな公園が、いくつか集まった地域を一つの公園のように捉えて、公園マップの作成や、ウォーキングコースを設定し、公園を巡って健康づくりに利用したり、公園を巡りながら子どもを遊ばせたりできるようにしてはどうか。
- 公園を巡る健康ラリー(スタンプラリーの様なイベント等)もできればよい。カフェなどは難しいと思うが、ラリーのコース上やゴールとなる公園に自動販売機があれば、休憩やご褒美として利用してもらえないか。
- 公園の特徴や歴史に由来する名前を付けることで、ただ遊んだりするだけではなく、利用者が気づきや思い出など、何かを持って帰ることができる公園になればよい。

■ 公共施設等に隣接する公園を活かす!

- 公共施設等に隣接していれば、大人の目があり、子どもを安心して遊ばせられるので、もっと整備に力を入れてもよいのではないか。(例えば、子どもたちがダンスをできる場所、遊びが生まれるベンチなど)
- 公共施設と隣接する公園であれば、雨天時でも施設が利用できるため、乳幼児の屋外での保育の場として公園を活用してはどうか。

■ 周辺環境や公園面積にあわせた機能に特化!

- 幼稚園の近くの公園には、きれいな砂場や小さな子の目線で作られた花壇があったり、また、高齢者施設の近くの公園では、高齢者と子どもと一緒に楽しめるイベントがあるなど、隣接する施設にあわせて、公園の機能を特化するとよいのではないか。
- 大きな公園の近くの小さな公園を駐車場にすれば、大きな公園が車で利用しやすくなってよいと思う。
- 小さな公園がバラバラと点在する地域では、公園以外の施設や土地と公園を等価交換し、公園を統廃合することで、広さのある公園を生み出せないか。
- 小学校のグラウンドを大きい子どもの遊び場として開放し、学校の近くの小さな公園は小さな子どものボール遊びができるボール遊びに特化した公園にするとよいと思う。
- 子どもが行かないような場所にある公園は、廃止してはどうか。



第3回公園市民ワークショップ

(テーマ: 公園と地域のこれからを考えよう) を開催しました

12月8日(土)、泉大津市の公園について考える公園市民ワークショップの第3回目を開催しました。ワークショップでは、市内の大きな公園と小さな公園が、それぞれどのような公園になればよいか、どんな地域にある公園なのかも想定しながら考えました。

今回は、新消防本部庁舎を会場にお借りし、ワークショップ後に、施設を見学させていただきました。



「公園気づきプロジェクト」は、地域の特性やニーズを踏まえた賑わいの創出や魅力的な特色ある公園づくりに向けて、公園のあり方を市民の皆さまと共に考えるプロジェクトです。市民ワークショップや、六師公園での社会実験、公園アンケートを実施しています。本プロジェクトの取組みは、「公園気づきプロジェクトニュース」でご報告していきます。

公園アンケート実施報告④

2018年3月から4月にかけて実施した「郵送アンケート」の結果の一部を、ご紹介させていただきます。アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

【質問】市外の公園を利用されることはありますか?

【アンケート集計結果(上位3位)】(有効回答数: 142)

1位 浜寺公園(68件、主な理由: 広い、きれい)

2位 蜻蛉池公園(20件、主な理由: 遊具が豊富、広い)

3位 肥子池公園(10件、幼児向けの遊具、きれい)

第3回 公園市民ワークショップ

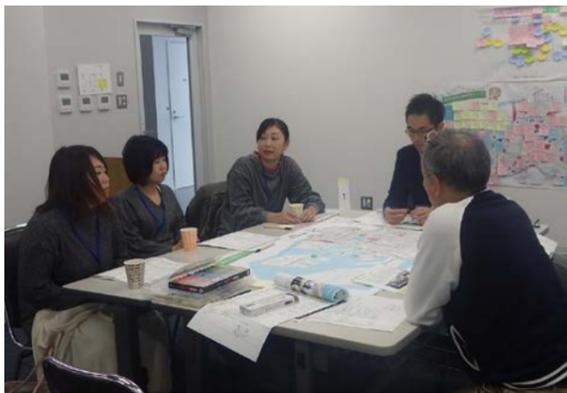
テーマ：公園と地域のこれからを考えよう

公園と地域のこれからを考えよう 「公園やりくりマップ」づくり

公園のやりくり（活用・リニューアルの工夫） を考えてみよう！

公園がある周辺の地域の環境のことも考えながら、市内の大小様々な公園を、どのようにすればよいか、公園のやりくり（活用・リニューアルの工夫）を考えました。

参加者からは、単に現状をやりくりするのではなく、市内の公園全体が、テーマをもったワクワクするようなまちを考えよう！と、力強いエールもいただきました。



大きな公園、海辺・川辺の公園について

古池公園や東雲公園など大きな公園、なぎさ公園など海辺の公園、川辺にある大津川緑地といった、市内でも比較的広い公園について、市全体の公園の配置も意識して考えました。

■ 各公園の特徴を活かした特色ある公園に！

- ・1つの公園に多くの機能が詰め込まれていると、どれも中途半端で使いづらい。
- ・各公園の特徴をいかして、魅力ある公園にするとよいと思う。

■ 広々と自由に使える公園に！

- ・施設の配置を見直して、広々と自由に多目的に使える広場になるとよいのではないか。
- ・ウォーキングコースや、距離標示の設置、園路にケンケンバ遊びができるペイントをするなど、園路が軽い運動に使えるようになるとういのではないか。

■ 公園の立地や周辺環境をふまえた使い方、機能の充実を！

- ・大阪臨海線より海側は、車通りも多く、子どもが利用しにくい。市街地の公園は、幼児から中学生以下の子どもたちが利用しやすい公園にし、大阪臨海線より海側は、どちらかといえばスポーツ施設等の大人の利用を想定した公園にしてはどうか。
- ・東港公園の周辺には、子どもの遊び場になるような公園が少ないため、東港公園の子どもの遊び場としての機能を充実させるとよいと思う。
- ・板原公園は、離れた場所にあり川も跨ぐため行きにくくて利用しない。わざわざ行きたくなる特色があれば、利用する人も増えるのではないかと。

■ グラウンド利用を使い分ける！

- ・スポーツ利用は、港湾緑地のグラウンドを利用するなど、使い分けができないだろうか。
- ・グラウンドがある公園が多数存在するが、事前に申し込まないと利用できない。
- ・誰でもボール遊びができるように、グラウンドを開放してはどうか。



〔各公園に対する意見〕

穴師公園

- ・森があり、緑が多い特徴を活かす。
- ・春や秋に花が咲く木や草花で魅力をアップさせる。
- ・園内の区切りを減らして広々と利用できるようにする。



古池公園

- ・子どもを遊ばせながら、親が座って休憩できる場所をつくる。
- ・夜市のようなイベントに活用する。



助松公園

- ・高低差を活かした健康づくりの場として活用する。

東雲公園

- ・今後も、いろいろな人が利用できる公園に。
- ・おしゃれなキッチンカー、テーブルとチェアを置いてゆっくりすごすような、泉大津らしさを意識した新たな試みを実験的にやってみる。



畦田公園

- ・施設の配置を見直して、もっと広々と使えるようにする。
- ・緑地を増やして、広がりを持たせる。
- ・憩い、軽い運動やボール遊びができる公園に。

東港公園

- ・大阪臨海線を渡らねばならず、子どもには危ない。
- ・大人がくつろげるような場所にする。
- ・子どもの遊び場として充実する。



板原公園

- ・特色を持たせる。

大津川緑地

- ・ウォーキングに利用する。
- ・水遊びができる場所を設ける。
- ・ボール遊びなど、子ども達が使える広場を設ける。

